

QRコードをスマートフォンやタブレットで読み取ると、各議員の一般質問の動画が視聴できます。

共に創る掛川
富田まゆみ



愛護活動に頼っている地域の草刈り作業を持続可能な体制とするには

Q 地域の草刈りを行う「有償ボランティアを地区内で養成する」、減少傾向にある「シルバー人材を育成・支援する」、全市的に活動を行う「草刈り応援隊を行政主導で立ち上げ支援し、市民活動団体として育成する」ことも有効な手法と考えるが見解を伺う。



河川の草刈りをする地元住民

ボランティア活動に必要な支援策を研究する

A 「かけがわりバー・ロードサポーター制度」の登録団体には、活動時に使用する物品の提

供を行っています。また、河川愛護実施団体には、謝礼をお支払いしています。両制度を広く案内し、団体の増加、活動の定着や活性化が図られるよう支援策について研究していきます。また、シルバー人材センター会員数は減少傾向ですが、今後も業務が継続できるよう支援していきます。

持続可能な自治区・地区組織の在り方は

Q 多くの住民が負担なく参画する持続可能なまちづくりができるよう、市があるべき自治区・地区組織の先行事例を示すべきと考えるが、見解を伺う。

組織等の見直しに取り組む地区の実例を示していく

A 現在、複数の地区において、組織等の見直しが進んでいるため、地区同士での情報共有や意見交換の場を設ける等、先行して取り組む地区の実例を示し、水平展開を図ります。また、事業目的等の見直し、デジタルを活用した取り組みの推進などを地区とともに検討していきます。

新しい風
藤澤恭子



ヤングケアラーへの支援策を

Q ヤングケアラーを支援することと同時に、子どもたちが

ヤングケアラーにならないよう、未然に防ぐ社会づくりが必要であると考えるが見解を伺う。



ヤングケアラーの早期発見、早期支援の推進に努める

A ヤングケアラーは、早期発見、早期支援、周知・啓発が必要です。そのような状況にある子どもを把握した場合、子ども家庭総合支援室は、学校教育課や学校と連携しケース会議等を行い、必要な制度や支援につなげていきます。昨年、県が

実施した調査の分析結果を待ち、実態および課題の把握とともに、関係機関がより一層の連携を図り、早期発見、早期支援、周知・啓発の強化に努めます。

オルタナティブスクールの検討を

Q 多様な教育ができるまちとして、子育て世代からも選ばれる市であるため、フリースクールなどのオルタナティブスクール(※1)の検討を進めるべきと考えるがいかがか。

多様な教育の場を提供するための支援を検討していく

A オルタナティブスクールは、日本国籍を有する学齢児童生徒を就学させても、就学義務を履行したことになりません。しかし、児童生徒のために、多様な教育の場を提供することは大切です。誰ひとり取り残さないためにも、どのような支援が必要か検討していきます。

※1 公の教育とは異なる独自の教育理念・方針により運営される学校の総称